



SuPドリームのTwitterを始めました。フォローして最新情報のゲット、そして応援Tweetをお願いします！

@79_SuP_Dream

パーツサプライヤー16社の総力を結集したスペシャルCBRが奮闘。初参戦のTeam SuP Dream Hondaが第40回の記念大会で42位完走!

7月28日(金)に行われた公式予選で3名のベストタイムの平均は2分9秒899。午後からは日差しが強くなり、タイヤにも厳しいコンディションとなったが、SuPチームのライダーは走行を重ねるごとに全員が自己ベスト更新を果たした。上位陣でもこの2回目の公式予選でタイムアップを果たすライダーが少なかったのと比較し、SuPにはまだまだタイムが縮まる伸びしろがある。

迎えた決勝日の30日(日)。今にも雨が降り出しそうな黒い空の下、定刻通り11時30分にル・マン式スタートにて8時間に及ぶレースの火蓋が切られた。14番グリッドからスタートした伊藤真一はオープニングラップを17位で終了。「西コースで雨!」という実況放送が入る中、伊藤は徐々に順位を回復し、7位まで順位を上げると、予定通り27周目にピットイン。タイヤを交換してガソリンも補給し、ダミアン・カドリンにライダーチェンジ。ダミアンは13位でコースに復帰する。

シケインで転倒したマシンがあったことにより、セーフティカーが入る。リスタート後に順位をひとつ落としたダミアンだが、堅実な走りで11位まで順位を回復。28周を消化してグレッグ・ブラックにライダーチェンジする。

グレッグも周回を重ねるごとに確実に順位を上げるが、7位を走る83周目、ルーティーンのピットインを果たそうというまさにその時、130Rで転倒するグレッグの姿がモニターに映し出される。

意識が朦朧とした状態でグレッグがピットに帰ってきた。メカニックの懸命な修復作業により、15時16分、エンジンに火が入る。カウリングを装着して暖気、ガソリン補給を終えたマシンに伊藤がまたがり、15時21分にコースへ。この時、順位は57位あたりまで落ちていた。

そこからSuPチームの快進撃がスタートする。伊藤は49位まで順位を回復して111周目にピットへ。交代したダミアンも46位に順位を上げ、137周目にピットに帰ってくると伊藤がコースに出る。その後ダミアンにチェンジ。ダミアンが44位まで順位を回復してピットに戻り、伊藤が最後のステイットへ。結局、トップ差23周となる193周を走り切り42位でチェッカーを受けた。

第40回という節目の年の鈴鹿8耐に参戦したTeam SuP Dream Honda。20位に入れば2018年のシード権を獲得できるこのレースだが、それは叶わなかった。それほど鈴鹿8耐は甘くないということだ。明日からは課題を洗い出して来年の鈴鹿8耐に向けて再スタートを切る。



決勝日の朝、応援に駆けつけた16社の皆さんとともに、壮行会を行い、チームにエールを贈った



79 SuP Dream Honda

